



講師・インストラクター向け JPAN2 研修会を開催しました！

検査開発委員会 加藤 寿宏

2010年12月にJPAN 感覚処理・行為機能検査（JPAN）は誕生し、もうすぐ13歳となります。子どもの発達には社会文化的背景の影響をうけるため、10年を目途に改訂をすることが推奨されています。私たち検査開発委員会もJPANの改訂版、JPAN2の開発を4年前からはじめ、長いコロナ渦を経て、ようやくデータ収集を行うための検査道具・検査マニュアルが完成しました。

これから約3年で、全国630名のお子さんのデータ収集、信頼性・妥当性の検証を行い検査が完成する予定です。中でもお子さんのデータ収集がもっとも大変なプロセスであり、お子さんのデータがなければJPAN2は完成しません。

お子さんのデータ収集は、各地域の日本感覚統合学会の講師・インストラクターが中心となり、会員のみなさまのご協力をいただきながら行います。

そのための、講師・インストラクター向けJPAN2研修会を10月22日（日）関西医科大学リハビリテーション学部にて開催しました。

北海道から沖縄まで全国各地の講師・インストラクター24名と販売業者であるパンフィックサプライから4名が参加しました。研修会は以下の内容で行われました。

1. JPAN2 開発コンセプト
2. JPAN との相違点
3. 検査方法の説明
4. 今後のスケジュール

来年度には、各地でJPAN2データ収集者のための研修会を開催いたします。対象は認定講習会A'コース合格者となります。630名という膨大な数のデータ収集には会員のみなさまのご協力が不可欠です。是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。

JPAN2ならびに先行して標準化を進めていますADAPPの情報に関しては、HPでお知らせをさせて

いただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

